

なにかと読めないまち

# 養父市



詳しくは  検索

全国のみなさま、国家戦略特区にも指定された兵庫県養父市です。

え？知らない？そもそも、読めない？そうなんです。養父市は読みにくいまちとして、

「ようちち市」「ようぶ市」はたまた「ぎふ市」と…本当によく間違われます。

でも、「読めない」ってすばらしくないですか？「読めない」は、いわば、「予想外」。

養父市は、全国のみなさまへ向け、胸を張って「読めないまち」を宣言します。



# 更なる規制改革(特区の深化)と実践に向けて

企業が農地を所有し営農することが可能

## ■特例の内容

農地所有適格法人以外の法人に於いて一定の要件を満たす場合には、養父市を経由して農地の取得を認める(5年間の期限措置)。

## ■要件緩和までの道のり

- 農業生産法人の更なる要件緩和の提案(平成26年7月23日第1回区域会議から)
- 市独自に農地の適正管理に係る条例を制定(平成27年9月30日公布)
- 企業所有により農地が耕作放棄地・産廃置場に繋がらないよう担保
- 平成28年2月5日 第19回特区諮問会議での総理発言により議論が本格化へ

## ■農業分野以外の規制緩和の活用

- 遠隔診療におけるテレビ電話による服薬指導とドローンの活用
- 自家有用有償旅客運送の拡大



特区諮問会議で安倍総理と言葉交わす広瀬市長

# 中山間地域のモデルの構築 ~養父市がめざすもの~

## ■企業が担い手となり、農地を価値あるものへ

農家の経営力アップと企業の参入を促進することにより、多様な農業の担い手を確保し、農村の伝統文化の源である農地を守り、価値を生むものへと変えていきます。



企業のマーケティング力・開発力・創造力・資金力・人材を活かした農業の高付加・6次産業化に期待(農地の活用、経済の活性化、雇用)

## ■多様な農業の実践により養父市創生へ

- 有機の郷づくりの推進
  - 【土づくり】よい牛からよい堆肥がでる。市内の農地へ
  - 【栽培技術】化学合成肥料・化学農薬を使わない作り方
  - 【社会貢献】消費者の方々への普及、食育
  - 【環境意識】農業を通じて環境づくり(コクワノリ)の啓蒙など
- スマートアグリ(植物工場)による次世代農業の取組み
  - 天候に左右されず安定した野菜生産 ●農業を使わず安心・安全



【右】小さく効率的な植物工場(生牛乳製造場(植物工場))  
【上】増える耕作放棄地



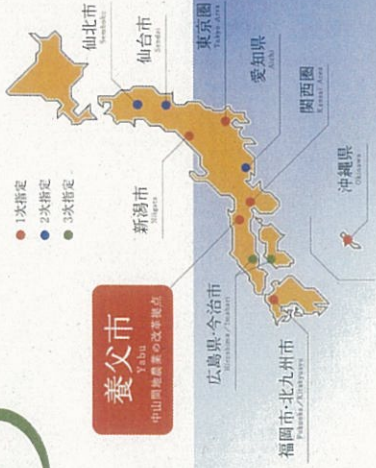
【左】スマートアグリ(植物工場)による次世代農業の取組み

「規制緩和とメニューを活用して事業を行いたい方」、  
「新たな規制改革が必要となる事業をお考えの方」の提案を募集しています。

特区に関するお問い合わせ・提案に関するご相談はこちらまで。  
養父市 企画総務部 国家戦略特区・地方創生課  
〒667-8651 兵庫県養父市八雲町八雲1675(八雲庁舎) Tel.079-662-3169 E-mail tokkusouseifcity.yabu.jp

# 養父市の挑戦

## 国家戦略特区 中山間農業改革特区



養父市  
Yabu City  
中山間農業改革特区

- 1次指定
- 2次指定
- 3次指定

仙北市  
仙台市  
新潟市  
新潟県  
愛知県  
関西圏  
東京圏  
仙北圏  
仙北圏

広島県・今治市  
福岡市・北九州市

Challenge of Yabu City

## 国家戦略特区とは?

Point

### 「岩盤規制」改革の突破口 「総理・内閣主導」の枠組み

- ①国が規制改革を行い、養父市をモデル地域として、民間事業者が経済活動を実施する。
- ②規制改革を実現しながら更なる規制改革を行う。

### 内閣総理大臣主導の特区

国(特区担当大臣)、自治体(市長)、民間(代表者の3者で)

ミニ独立政府の枠に決められる  
主体性を持った特区

## 養父市が特区へ提案した理由は?

人口減少が進む養父市は高齢化や離農による担い手不足により、また、農村の伝統文化の源であり、農村を育む「農地」が守られなくなっています。それらの問題解決につながる環境をつくりたいと考えました。

人口の減少と高齢化の進展 → 多様な農業の担い手を確保するための環境づくり  
農業の担い手不足と耕作放棄地の増加 → 元気な高齢者が経済活動に参加できる環境づくり

■人口と高齢化率の推移

	1960年	2000年	2015年	2040年	2060年	比較
人口	44,884人	30,110人	24,283人	15,780人	9,875人	(国) 47.5%
高齢化率	13.4%	29.1%	36.4%	42.9%	47.3%	(国) 47.3%
農地と農家数						(国) 農地: 1,520ha / 280ha 農家数: 6,014人 / 2,388人
耕地面積 / 耕作放棄地						2015年
						1,520ha / 280ha
総農家数						2,388人
						39.9%

国家戦略特区の提案 ● 農地の流動化促進 ● 高齢者の労働環境改善

# 養父市では規制改革を実践

# し、地方創生に繋げていきます。

## 規制改革 | 01

### 農業委員会と市の事務分担

農地の権利移動の許可事務を市が行っています。【農地法第3条第1項関係】

#### 農業委員会との協議

平成26年4月17日～6月23日  
計7回に及ぶ協議の実施

#### 農業委員会同意の要旨

- 目的は民間で農業振興であること
- 市の取組を鑑み、農業振興に必要な措置と判断

平成26年7月5日 同意書の提出



左から養父市長、大谷農委会長、立瀬市長

平成26年9月9日 全国で初めて総理大臣認定された事業

## 地方創生 | 01

### 農地を取得しやすい環境が整う

#### ①耕作放棄地の再生

#### ②農地の流動化を促進

- 事務処理期間を26日(平成26年度平均)→13日に短縮
- 平成26年10月～平成28年3月まで、83件の許可実績(約13.5ha)  
(平成26年度以前の許可件数 平均40件程度)
- 農家とみなさず農地所有面積(10a)に引き下げ

## 規制改革 | 03

### 農業への信用保証制度適用

農業資金でも信用保証協会の保証を受けられるようになりました。

#### 養父市アグリ特区保証融資制度

商工業とともに市内で農業を営むための事業資金に対して兵庫県信用保証協会の保証を受けられます。信用保証料の補助と利子補給などを市が支援します。

## 地方創生 | 03

### 農業分野への第2創業と6次産業化の促進

- 農業機械製造会社によるスマート栽培
- 養豚事業の拡大



- 菓子製造会社によるいちご栽培



## 規制改革 | 02

### 農業生産法人の要件緩和(役員要件)

法人の農作業に従事する役員が1人いれば、農業生産法人とみなされます(特例農業法人)。【農地法第2条関係】

※平成28年4月改正農地法施行

#### 農業生産法人の設立(11社)

11事業者(うち9事業者が市外)が地域の農業生産者等と株式会社を設立し、6次産業化を目指し事業を行っています。

## 地方創生 | 02

### 市内各地で法人による営農がスタート

#### 【特例農業法人の参入状況】

- 1 田舎文新産直(11市・町)
- 2 田舎文グリーンファーム(八朗町八木・大谷・三宅)
- 3 田舎文(八朗町三谷)
- 4 やまぶら(八朗町大谷・養父市川)
- 5 田舎文(八朗町三谷)
- 6 田舎文(八朗町三谷)
- 7 田舎文(八朗町三谷)
- 8 田舎文(八朗町三谷)
- 9 田舎文(八朗町三谷)
- 10 田舎文(八朗町三谷)
- 11 田舎文(八朗町三谷)



## 規制改革 | 04

### 旅館業法施行規則の要件緩和

歴史的建築物を宿泊施設とする事業において、玄関帳場(フロント)の設置が緩和されました。

#### 木造三階建て養蚕住宅群の空き家を活用して宿泊施設として整備

地域の歴史文化資源の有効活用と併せて地域の活性化に寄与しています。

## 地方創生 | 04

### 古民家(空き家)が旅館として再生

古民家の宿「大野大杉」が平成27年10月にオープン



## 規制改革 | 05

### 高齢者等の雇用の安定等に関する法律の特例

シルバー人材センター会員の就業時間が引き上げられました。派遣業務において週20時間から40時間に引き上げ

## 地方創生 | 05

### シルバー人材センター会員の労働時間の拡大



# 近畿ブロック PPP/PFI セミナー資料

## 道の駅「ようか但馬蔵」PFI 事業について

### 1. 施設概要

名称 道の駅ようか但馬蔵（たじまのくら） 図面等は別紙参照

#### 敷地面積

敷地面積	全 体	17,766 m <sup>2</sup> 養父市所有地 1,772 m <sup>2</sup> 、借地 7,580 m <sup>2</sup> 、国交省 8,414 m <sup>2</sup>					
	駐車場	大型 18 台、小型 114 台、身障者用 2 台					
施設建築物概要	棟別用途	物販・レストラン	機械庫	回廊	バスターミナル	休憩室・公衆トイレ	
	構造・階数	木造一部鉄骨・1階	木造	鉄骨造	木造	RC一部鉄骨	
	延床面積	合計	959 m <sup>2</sup>	6.48 m <sup>2</sup>	151 m <sup>2</sup>	12 m <sup>2</sup>	341 m <sup>2</sup>
		1階	959 m <sup>2</sup>	6.48 m <sup>2</sup>	151 m <sup>2</sup>	12 m <sup>2</sup>	341 m <sup>2</sup>
		2階	—	—	—	—	—
		以上	—	—	—	—	—
建設主体	名称：養父市・国土交通省 事業資金：新山村振興農林漁業特別対策事業国庫補助 129,486 千円 県補助 18,128 千円 養父市 111,358 千円 合 計 258,972 千円（建物建設費用・備品購入費等）						
管理主体	名称：株式会社 道の駅ようか （市の出資割合 0%）						
運営主体	名称：株式会社 道の駅ようか （市の出資割合 0%）						
施設の特徴・アピールポイント	蔵をイメージした建物が特徴。 野菜蔵では、ゆとりの空間と、地域の生産者から毎日届くフレッシュな果物や野菜、朝倉山椒の佃煮等加工品、花苗など豊富な品揃えが自慢です。 木の香ただようお食事処では名物「季節のおこわとおぼんざい」をはじめ、幻のお米「蛇紋岩米」や「八鹿豚」など特産の食材を使った料理をお召し上がりいただけます。地元産の八鹿豚のとんかつ、豚まんが人気です 無料で足湯が利用でき、利用者に癒しを提供しています。 情報ターミナルでは、やぶ市観光案内所もあり養父市はもとより、但馬地域の情報も充実しています。						

## 2. 事業計画策定段階での留意点

### ①. “導入する機能の内容”や“施設規模”の決定要因と目的

合併前の旧八鹿町で策定した「八鹿町総合計画」において、ゲートウェイパーク構想があり、北近畿豊岡自動車道の延伸計画に合わせて、「道の駅」の導入が決定された。

機能としては、リフレッシュ機能、情報集積・発信機能、地域連携機能の3柱とし、また、施設前面を走る国道9号線通行者をターゲットとし、災害時における帰宅困難者の避難施設として位置付けており、施設のにも対応させている。この施設は、地域住民と通行者が接する機会を提供することで地域が刺激を受け、活性化することを狙いとしている。

施設規模の決定は、「道の駅等調査委託業務報告書」、近隣道の駅やドライブイン等の入込数、9号線の通行量等を参考に、PFIで年間230,000人の来客者を想定し算定した。(SPCでは年間180,000人の想定)

想定入込数により、駐車場台数、店舗規模、トイレ規模を算定した。

### ②. 建設時及び運営において活用された補助事業。その補助導入に至った経緯及び事業認定におけるポイント。その他、PFI事業者の誘致における動機付け。

平成15年12月末、新山村振興等補助について、国がPFI手法を取り入れた整備も可能であるとの方針が発表され、PFI事業導入に大きく前進した。

同時期に3セクの設立も検討されたが合意(設立)に至らず、また課題も多いことから見送られた。

この様な中、PFI事業の特徴や手法が理解され導入されることとなった。

当初は補助ありきの考え方ではない。事業目的を達成するための財源手立てとして補助事業の活用を行った。当時PFI事業における部分払いによる事業者コストの増が問題化されていた。このことから事業者が補助事業を受けることにより、コストリスクが低減され、民間事業者の参加意欲が増した。

(補助事業ありきで考えると、補助制度が持つしがらみの中で動かさなければならず、事業者にとって自由度がそがれてしまう結果となる。今回の事業では、あくまで財源手立てとした考え方で補助事業を取り込み行った。その間、国、県と意見の相違が多々あったが粘り強く交渉を重ね、最終的には事業者側の想いに沿った形で事業執行が行われた。)

### ③. 事業推進のキーマンは、どのような方か。また、その役割。

外部有識者 養父市PFI事業審査委員会

光多長温(みつた ながはる) 鳥取大学特任教授

佐藤豊信(さとう とよのぶ) 岡山大学環境生命科学研究科 教授

キーマン 養父市職員(当時、係長~課長補佐~課長職)(現在は退職されている)

養父市をこよなく愛し、地域の発展を願い、市民としての誇りを持つ人材  
地域への貢献を惜しまず、最後までやり抜く強い信念の持ち主

企画立案者、導入から完成までの実務者でありコーディネーター(調整役)

#### ④. 事業化推進におけるハードルとクリアーした経緯

PF I 事業における行政サイドの環境がまだまだ整っておらず、その上行政側の委託事業としての感が根強く残っている現状から、PF I 事業実施にあってはまだまだ厳しい環境にあると考えている。

事業執行の経過の中で様々な課題が生じるが、幅広い情報収集とゆるぎない目的意識を持つことにより、課題解決を図ってきた。課題の生じた個所のほとんどは、行政側にあったといえる。また、地域住民に対する理解度を向上させるために幾度となく、住民説明会を開催し理解を深めてきたところである。

#### ⑤. 出店者（農家、加工品や地場産品など）の確保と契約締結の工夫、品出しのシステム・仕組みについて

農産物等直売所の会員の会「蔵人の会」を設立。直売所の出荷ルールを策定し、会員登録をすることによって、販売することができる。現在会員登録数 180 人（件）。

また、各会員に携帯電話を携行させ、直売所からの商品在庫状況、販売状況をメール発信し、各会員がその状況を見て商品納入を行っている。

野菜や加工品等は各会員のペースに合わせ出品することとし、自由度を上げている。個人農家から商店事業者まで幅広い。

この直売所の中に、但馬農業高校との産学連携事業として、実習で作付けした作物の販売コーナーを年間 400 m<sup>2</sup>確保し、但馬農高生の実習の場としても活用を図っている。

近年新種の農作物（スマートアグリトマト、レタス、山椒など）の生産販売、大阪阪急百貨店での販売など販路拡大を行っている。

### 3. 現在の利用状況と改善点などについて

#### ①. 現在の賑わい状況（利用者数の推移動向、周辺の施設・商店街への波及効果など）

創業当時：平成 19 年度入込数 254 千人（レジベース）

現 状：平成 27 年度入込数 374 千人（レジベース） 利用者は 100 万人超

周辺に与えた波及効果等：北近畿豊岡自動車道の開通による利用者増

農業特区（農家の意識改革生産から販売まで工夫）

生産面積の拡大（耕作放棄地での栽培、端境期での作物の安定収穫 ハウスの設置、新商品開発等）

販路の拡大・販売数量の増加

特産物（八鹿豚を使った料理等、蛇紋岩米の販売）への意識

養父市の観光案内所の設置

養父市・但馬地域の知名度の向上 等

#### ②. 賑わいが継続している要因、継続のために配慮している点など

・SPC（橿道の駅ようか）の経営スタイル・店舗設計・顧客分析等美観に配慮した衛生的な建物管理。

・レストランメニュー、売店でのディスプレイ手法等、来場者に与える上質な印象。

・SPC と養父市、養父市と国交省等関係者間の連携や情報交換を行っている。

（現場レベルでの意思疎通は大切である）

・農業特区の農作物や地域の特産品を加工、販売やレストランでのメニューに活用している。

③. 失敗した部分、こうすれば良かったと思う点

- 行政側におけるPFI事業人材の確保が行えなかったこと。
- PFIの概念や情報の発信が不十分であった。

④. 現在の課題

行政側のモニタリング機能の継続的な維持(これが疎かになると行政リスクの増大へ

- ① 蔵人の会の高齢化と会員数確保 (=出品量と品数に影響するため)
- ② 北近畿豊岡自動車道の更なる延伸に伴う利用者減少への対応  
→リピーター確保と拡大について。  
→多種多様なアピールポイントの作成と工夫
- ③ 契約期間満了時の更新にともなう事業者選定 (現事業者の更新か新規募集か)
- ④ 農業特区との関連 (蔵人の会の農作物の販路拡大、特産品の販売)
- ⑤ 重点道の駅候補に選定され、道の駅の多機能化への対応
- ⑥ 団体客の受入
- ⑦ 国土交通省が重点道の駅候補に選定されたがPFI事業社が実施する部分もあるので行政主導では施設整備が出来ない。

4. 諸々

- ・顧客目線に対応しているかどうか (事業者側のみならず行政側に最も求められる物)
- ・顧客満足度をいかに高めるか
  - ① 道路利用者の数量的規模の試算と将来展望
  - ② ①の数量的規模に対応して、供給する物量とその品種の選定
- ・受益者設定の明確化 誰なのか。県市民、周辺事業者、道路利用者等々
- ・公金を投入する根拠・判断基準の一つとしてVFM算定を行い、特定事業の認定を議会同意を求めている。  
VFMの試算 (養父市はパッケージのVMF試算ソフトを改良しオリジナルとした)

■ 道路管理者との役割分担

- ・旧町時代において当時産業課 (農林係) で「道の駅」の導入を進めていた。
- ・また当時ゲートウェイパーク構想があり地域活性化を模索しており、これに合わせて道の駅設置を表明し国交省に提案した。構想の段階から協議を重ね、理解が得られた。
- ・ (情報ターミナル) 駐車場の土地は、国交省が買収を行った。国交省名義 (地域交流施設) 養父市が地権者から借地をして、無償で提供している。

■ 用地について

- ・用地整備は、中山間地域総合整備事業 (レインボー南但地区) で実施し、農道整備や収穫量を増やすための事業を行っていた。  
農業振興事業の根幹となる施設となることを目指し、養父市の農業振興と農村地域の活性化に必要と判断し除外に至る。

■ 公共交通機関について

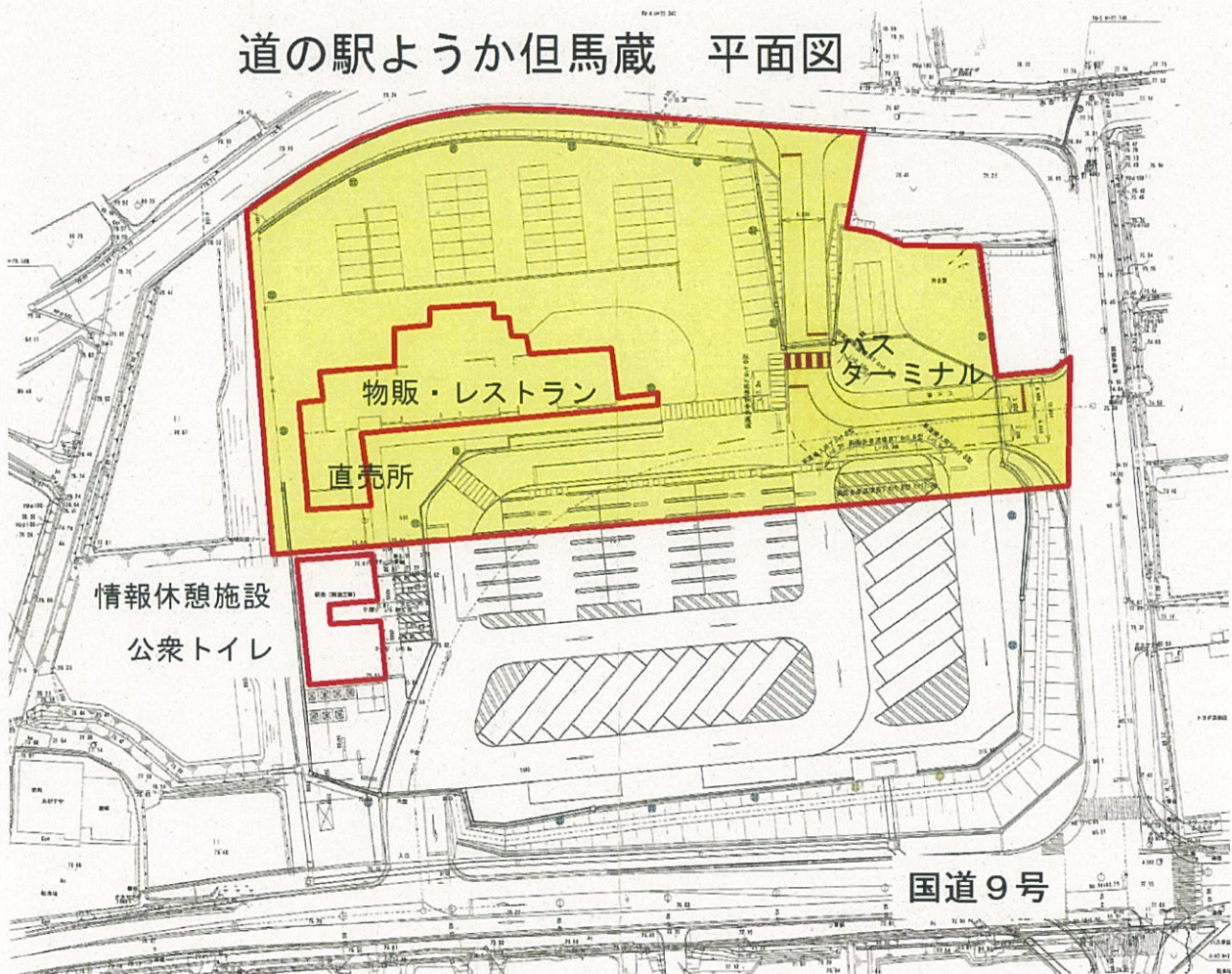
- PFI事業の事業社募集要項、要求水準に記載。バス停の設置場所は市が無償提供。建物はPFI事業社が建設。
- ・路線バス6路線  
豊岡、出石、村岡、湯村、鉢伏、大屋の6路線 但馬のほぼ全域へ道の駅を中心に但馬の主要観光地、病院を網羅している。
  - ・高速バス2路線 (大阪3便往復、神戸2往復)

# 道の駅「ようか但馬蔵」PFI事業について

## 1. 施設概要

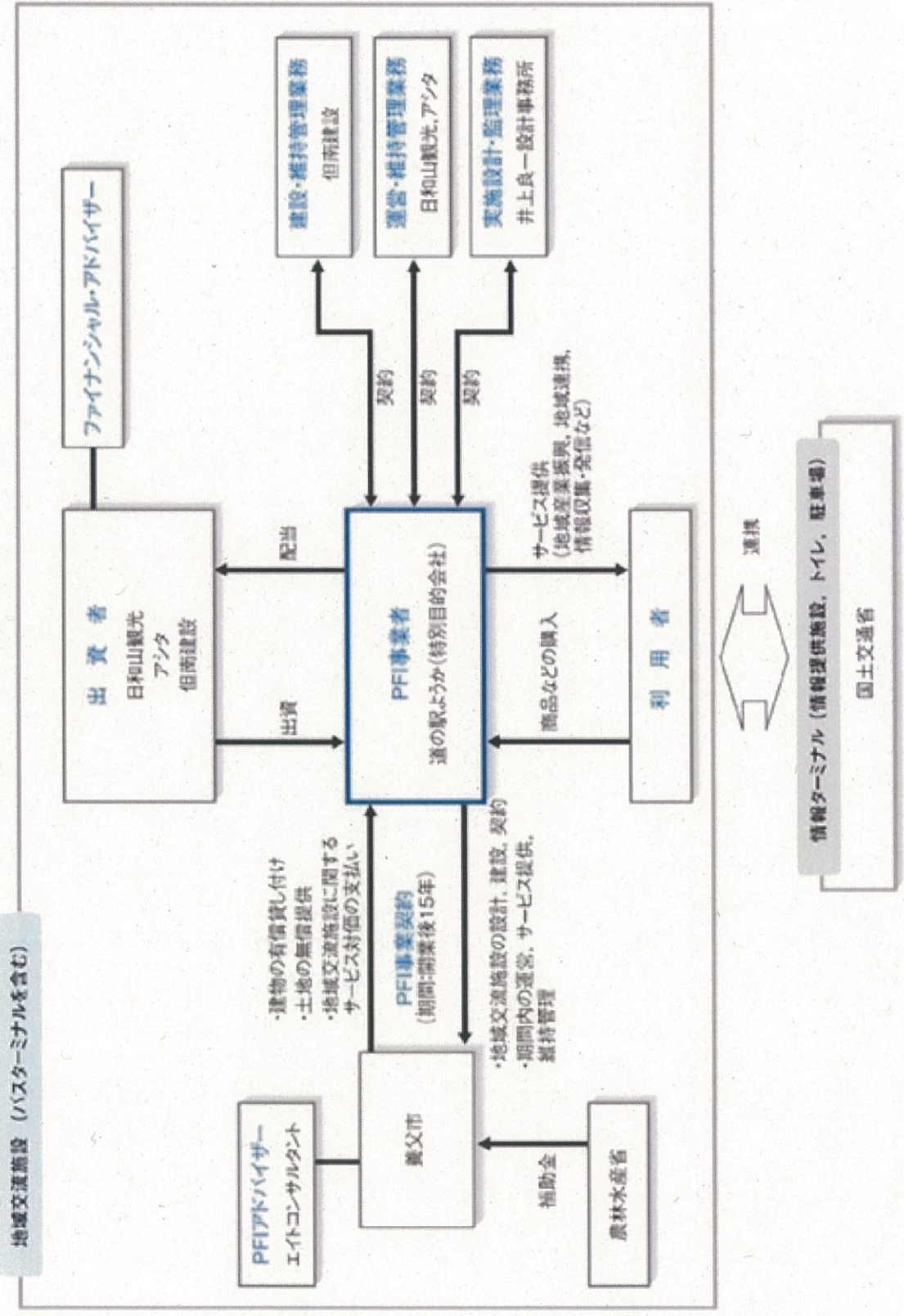


### 道の駅ようか但馬蔵 平面図





●「道の駅ようか但馬蔵」事業の仕組み



(参考2)

施設概要 名称 道の駅ようか但馬蔵(たじまのくら) ~平成18年11月オープン

グランドオープンH19.3月

敷地面積	全体	17,766 m <sup>2</sup> 養父市所有地 1,772 m <sup>2</sup> 、借地 7,580 m <sup>2</sup> 、国交省 8,414 m <sup>2</sup>				
	駐車場	大型 18 台、小型 114 台、身障者用 2 台				
施設建築物概要	棟別用途	物販・レストラン	機械庫	回廊	バスターミナル	休憩室・公衆トイレ
	構造・階数	木造一部鉄骨・1階 延床面積 959 m <sup>2</sup>				
建設主体	名称：養父市・国土交通省 事業資金：新山村振興農林漁業特別対策事業国庫補助 129,486 千円 県補助 18,128 千円 養父市 111,358 千円 合計 258,972 千円（建物建設費用・備品購入費等）					
管理主体	名称：株式会社 道の駅ようか（市の出資割合 0%）					
運営主体	名称：株式会社 道の駅ようか（市の出資割合 0%）					
施設の 特徴・ アピール ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵をイメージした建物が特徴。</li> <li>・野菜蔵では、ゆとりの空間と、地域の生産者から毎日届くフレッシュな果物や野菜、朝倉山椒の佃煮等加工品、花苗など豊富な品揃えが自慢。</li> <li>・幻のお米「蛇紋岩米」や「八鹿豚」など特産の食材を使った料理がある。</li> <li>・無料で足湯が利用でき、利用者に癒しを提供している。</li> <li>・情報ターミナルの「やぶ市観光案内所」があり道路、観光情報も充実。</li> </ul>					

2. PFIの導入について

①道の駅設置について

合併前の旧八鹿町で策定した「八鹿町総合計画」において、ゲートウェイパーク構想があり、北近畿豊岡自動車道の延伸計画に合わせて、「道の駅」の導入が決定された。

②PFI導入経緯

道の駅整備について、平成15年12月末、新山村振興等補助について、国からPFI手法を取り入れた整備も可能であるとの方針が発表されPFI事業導入に大きく前進した。

新山村振興等補助事業の活用を行い、補助事業を受けることにより、コストリスクが低減され、民間事業者の参加意欲が増した。この様な中、PFI事業の特徴や手法が理解されPFI事業の導入を決定した。

③. 現在の利用状況現況（利用者数の推移動向、周辺の施設・商店街への波及効果など）

現 状：平成27年度入込数 374 千人

売上額：平成27年度実績 472 百万円（レストラン132百万円、直売所120百万円他）

周辺に与えた波及効果等：農家の意識改革（生産から販売まで工夫されている）

生産面積の拡大（端境期での作物の安定収穫、新商品開発等）

販路の拡大・販売数量の増加+農業特区事業者等の参入

特産物（八鹿豚を使った料理等、蛇紋岩米の販売）への意識

養父市の観光スポット再認識 等

サービス対価 年間 13,276 千円（リニューアル経費等含む15年間で390,257千円）

(参考1)

施設概要 名称 とがやま温泉「天女の湯」 ～平成14年12月オープン

敷地面積	全 体	養父市所有地 5,198 m <sup>2</sup>	
	駐車場	普通車 85 台 (内マイクロバス 5 台、駐輪場)	
	延床面積	合計	882.35 m <sup>2</sup>
		1階	355.71 m <sup>2</sup>
2階		526.64 m <sup>2</sup>	
建設主体	名称：養父市		
管理主体	名称：株式会社 とがやま温泉株式会社 (市の出資割合 0%)		
運営主体	名称：株式会社 とがやま温泉株式会社 (市の出資割合 0%)		
施設概要	泉質	炭酸水素塩泉	
	効能	神経痛、筋肉痛、関節痛他	
	特徴	多量の炭酸水素イオン(重曹)を含み、更に食塩やマグネシウム等も多く含んでいることが特徴。	
	施設	露天風呂、サウナ、ケア浴場、マッサージ浴槽、床席 16 席、椅子席 54 席、物販、畳休憩室等	

## 2. PFI を導入経緯

平成8年	12月	八鹿町高柳地内、地下1200mから温泉が湧出
平成9年	4月	「八鹿町温泉開発検討委員会」組織
平成11年	3月	3セク「とがやま温泉株式会社」設立
平成12年	9月	同社 解散
平成13年	2月	PFI導入調査(業者委託10社) 結果:PFIの適正あり
同年	4月	PFI事業審査委員会設立 委員8名
同年	8月	事業者募集開始
同年	12月	事業者決定
平成14年	1月	とがやま温泉施設等特定事業契約・建設着手
平成14年	12月	とがやま温泉 天女の湯 オープン
平成24年		オープン10周年
平成29年	11月	PFI契約終了

## 3. 現在の利用状況

現在の賑わい状況(利用者数の推移動向、周辺の施設・商店街への波及効果など)

現 状：平成27年度入込数 69,669人 前年対比90.2%

周辺に与えた波及効果等：地元資源の発見と利活用による市のシンボリック化

地元特産品の販路の拡大・販売数量の増加

但馬牛使った料理等の創作意欲の向上

養父市の観光スポット、お立ち寄りスポットとして認知

養父市・但馬地域の知名度の向上

市民の健康増進やケア目的としての存在価値高い

サービス対価 年間 31,666 千円 (15 年間で 473,474 千円)